

IIAS NEWSLETTER

2001年1月発行

国際高等研究所

関西文化学術研究都市 

国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために何を研究すべきか」を研究することを基本理念として、新たな学問の創造・進展を目指す「課題探索型」の基礎研究を行っています。

すなわち、人類の未来と幸福にとって不可欠な課題を発掘し、その問題解決に向かっての研究戦略を展開する中で、学術研究における新しい研究の萌芽、或いは新たな学問の立ち上げにより広く世界文化の発展に寄与することを目的としています。

目次

新年挨拶：沢田敏男（国際高等研究所 所長）

次期所長人事

新年挨拶



「永遠の青春の気概を持って、志高く生きる」 ～国際高等研究所事務局職員へ～

沢田 敏男

国際高等研究所 所長

あけましておめでとうございます。
皆さんには、輝かしいそして平安なお正月をお迎えになり、楽しい有意義な日々をお過ごしになられたことでしょう。
心より御同慶に存じます。

本年の正月は、21世紀の始まりであり、また第3千年期というミレニアムの最初の正月でありましたから、皆さん方それぞれにいろいろな感銘を覚えられたのではなかろうかと推察いたします。

私は、私事を申して恐縮ですが、82歳になる正月を迎え、以下のようなサムエル・ウルマンの詩などを思い起こし、志高く生きることの決意を新たにいたしました。「年齢が80であろうが18であろうが、心に美しさ・希望・歓喜・勇気・活力を持つ限り、その人は青春にある。」また「青春とは、人生の特定の時期を指すのではなく、心のあり方を言うのである。年を重ねるだけで老いはない。理想や情熱を失ったとき初めて老いるのである。青春とは、正に生命の深い泉から湧き出する新鮮さを意味するのである。」と詩っていますが、

私はこれに共感を覚えるものであります。
関連したことで私の脳裏に残るのは島崎藤村のチャレンジ精神についてです。藤村は、「初恋を思ふべし カーペンターの言葉」をモットーとして創作に取り組んだようです。

「木曽路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曽川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いてゐた。」

これは、藤村の「夜明け前」の素晴らしい文章のはじまりであります。当時(1929年)藤村は58歳で、中央公論への投稿全原稿4,000枚に及ぶこの名創作を起稿したのでありました。壮大、新鮮、澁刺としたこの若々しい文章は、初恋の初々しさに通じる息吹を宿すものであると思います。私は、中学時代に「夜明け前」を手にしたとき、その書き出しである上記の文章に強い感動を覚えたものです。若いさんはもちろんのこと、私のような高齢者でも、この藤村のように、初恋の

初々しさを忘れないで取り組む心構えが必要ではないでしょうか。

我々人間は、何よりも心 心のあり様 であると思います。すなわち年齢に関わらず、旺盛なチャレンジ精神を忘れず、永遠の青春の気概を持つて志高く生きることが大切であると考えます。

皆さんも新世紀や新しいミレニアムの初頭にあたり、「志高く生きること」の意味をもう一度問い合わせ直すことが大事なことではないでしょうか。

一言申し上げて新年のごあいさついたします。

本年もどうぞよろしくお願いします。

次期所長人事



金森順次郎氏を次期所長に決定

1月11日午前10時から開催された第43回理事会において、
金森順次郎氏（大阪大学名誉教授・前総長）が次期所長に決定された。
任期は2001年4月1日から2003年3月31日まで。

所長人事については、沢田敏男所長の任期が2001年3月31日までであることを受け、昨年12月18日に所長選考委員会が開催され、金森順次郎氏が新所長候補者として選出された。今回の第43回理事会では、理事28名全員の賛同により、同氏が次期所長に正式決定された。

同日午後3時から行われた記者会見で、新宮理事長から、「金森先生は人柄や学識面だけでなく、ネットワークを生かした組織の構築等の行政能力にも長けておられる。次期所長に人を得て大変心強く感じている」と紹介があった。

金森次期所長は、「高等研創設時に企画委員を務め、学研都市建設の推進役を努められた故・奥田東先生から高等研の『人類の未来と幸福のため』という理念を教えられた。これは未来を見通した社会貢献のことだと思っている。目先のことになるとわざず、何十年か後に花開くことに力を尽くしたい」と決意表明された。

引き続き、新宮理事長から、「沢田所長には『顔の見える高等研に』という要望に十二分にお応えいただいたと感謝しております。とりわけ学者村構想の実現、創設15周年記念事業に熱心に取り組んでいただきました。」と謝意を表明した。

沢田所長から、「就任当時はうまく行くか心配した。しかし任せられた以上はと、執行体制の整備・研究活動の活性化・学者村の実現など完全とは言えないが、ベストは尽くした。レールは敷けたと思う。研究財源等の制約は今後にも残るが、金森次期所長には『日本に高等研あり』と世界に発信して欲しい」との期待を表明した。

金森順次郎氏略歴

大阪大学名誉教授・前総長

関西地区大学セミナーハウス理事長

国際高等研究所学術参与・特別委員

1930年大阪府生まれ

専門：物性物理

受賞：日本学士院賞（1996年）

藤原賞（1999年）

本多記念賞（1999年）

（文責・事務局）



第43回理事会に引き続き行われた記者会見の模様

お問い合わせ

国際高等研究所



International Institute for Advanced Studies

編集・発行 / 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

<http://www.iias.or.jp/> e-mail: www_admin@iias.or.jp